

九条の会

秋葉区「九条の会」事務局

新津教育会館内

新潟市秋葉区善道町 2-9-44

Tel 0250-21-3691 Fax 0250-21-3692

<http://9jo.iinaa.net/index.htm>

「結成 5 周年のつどい」 100 人が集う！

12月5日(日)午後1時30分より、秋葉区新津健康センターのはつらつホールにおよそ100人が集い、秋葉区九条の会「結成5周年のつどい」が開催されました。

主催者として渡辺議代表委員が『私は今80才だが、憲法が制定されたのは16才の少年だった。憲法9条のおかげで平和な時代が続いて感謝をしています。しかし、昨年、民主党政権が誕生して、ちょっとはましなことになると思ったが、期待外れのような気がしてならない。最近、政権内部で“武器輸出3原則”の見直しが語られていることに危惧を感じている。このような状況の中で、私たちの「9条を守る」運動がますます重要になっています。』と開会の挨拶をされました。

続いて、今年の7月に結成5周年を迎えた「九条を守る阿賀野の会」の伊藤道秋世話人代表より、結成から現在にいたる多岐にわたる活動の紹介がありました。「結成総会で水原町長選挙を戦われた両者が、立場を超えて壇上に立ち挨拶されたこと」「立場や信条を超えて、広い層から呼びかけ人が結集することができたこと」「結成時の400人の会員が、“星の数ほどの小集会を”合言葉にして小集会を取り組み1000人を超える会員になったこと」「国道49号線沿いに“憲法を守ろう”の大看板を、この7月に設置したこと」など、私たちが学ばなければならない話をたくさん聞くことができました。

秋葉区九条の会からは、板橋事務局長が『国際紛争が起こるたびに戦争という方法しか解決の方法はないのか？軍事力を強化するしか知恵がないのか？私たちはそうは思わない。話し合えば必ず通じるものがあると信じています。その哲学が憲法9条に書かれており、その哲学を私たちの周りに語り広めていくことが私たちの運動だと思う。』と熱く訴えました。

「結成5周年のつどい」の記念講演として、報道写真家の石川文洋さんが「私が見た戦争と平和」と題しておよそ100分にわたりお話されまいした。石川さんが命がけで撮影したスライドを写し、戦争の残酷さ・悲惨さや平和の尊さについて、自らが体験し、自分の目を見たことについて、あふれ出るように話をされ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。話題は「ベトナム戦争」「カンボジア内戦」「ボスニア紛争」「ソマリア内戦」「アフガニスタン内戦」「沖縄戦」「アメリカ軍基地」「ベトナムの現在」「北朝鮮」「北方領土」「尖閣列島」「これからの沖縄」で、スライド86枚におよぶボリュームのある話で、「戦争とはこういうものだ」という熱のこもった話に圧倒されました。

閉会にあたり、二野静江代表委員が『日本の憲法9条が“世界の9条”にすることができるなら、世界中から戦争を無くすことができます。』と挨拶され、「結成5周年のつどい」の幕を閉じました。



渡辺議代表委員



伊藤道秋世話人代表



板橋育夫事務局長



上：講演する 石川文洋さん
下：自身の著書にサインする 石川文洋さん

平和のメッセージ

秋葉区のすみずみまで響かそう、
皆でつなぐ、平和のメッセージを！

生きていればこそ

渡辺 護（五泉市）

何回も何回も、石川文洋さんはくり返し熱を込めてこう語った。「生きていたからこそ…生きていればこそ…」と。それを聞きながら、わたしも思う。“そうか、天皇が僕の父を戦争に引っぱり出して、シベリアにつれて行かれ、そのために貧乏が我が家を襲っていたんだ”と。“でも父がシベリア抑留から生きて帰ってきたから、父が生きていたからこそ、今の私と私につながる家族、わたしの教えた教え子たちとの出会いがあったのだ”と改めて亡き父母や教え子を思う一時でした。

かつて、小学一年生のD君が、卒業式式歌の「君が代」を壇上で全校指導している私に「先生！『君が代』ってなんのこと？」と、突然きいてきたことがありました。その場にいた先生方に緊張が走ります。そりゃそうですよ。私は、三十七年間の教員生活で、卒業式式歌に「君が代」を子どもたちに歌わせるのは絶対反対と必ず職員会議で発言してきたのですから。先生方も、わたしがどう答えるか、かたずを呑んでみていたんです。残念ですが、先生方との合意が当然得られていないわけですから（言い訳になるでしょうか）、『君が代』というのはね、みんなの世の中がくるといいねという歌だよ」と、文部省の指導書通りの答えを苦衷の中で選択したことがありました。今でもありありと思い出す十五年前の出来事です。音楽教師でもあった私は「君が代」斉唱に一人でも反対し、任務分担として式歌の指揮をせざるを得なかった唯一に近い苦い思い出として記憶にとどめています。

戦争といえば天皇、天皇といえば戦争というのが私の認識です。天皇個人ではなく、天皇制といえば正しいのかも知れませんが、わたしには、天皇がいたから、悲劇的な戦争が起き、部落差別を頂点とする身分差別や格差差別につながっているのだと七十を過ぎた今でも敢然と思っています。“天皇のために死んでいく戦争”賛歌を絶対許してはいけないというのが、憲法九条です

九条を頑固に守り続けることが石川さんが最後に強調された「命どう宝」につながるのだと確信できる熱弁に新たな決意を迫られる一日となりました。

記念講演「この目で見てきた戦争 と憲法九条」について

富井智子（西島）

「秋葉区九条の会」結成五周年のつどいで、ベトナム戦争従軍・報道写真家の石川文洋さんと聞いて、私は若い時に買った「ベトナム戦争の記録」の写真集を思い出した。講演後もう一度、写真集を開いてみました。

ベトナム戦争は無数のドラマを生んだ。かわりをもった人びとの人生を変えた。南北ベトナムの国民五千万人の個々の人生には、現代史の激変をくぐり抜けた刻印がぎざまれている。アメリカは総力戦で臨み敗れた。総数二五〇万人以上の兵員を送り込み、核兵器以外のあらゆる兵器を使用した。派遣米兵の平均年齢は一九才だったそうです。そして、戦場で五万数千人が死に、その数字を上まわる兵士たちが、帰還したあと本国で自殺を遂げたと写真集の中に書かれてありました。石川文洋さんが撮った写真の中で目を伏せたいと思う場面が沢山のついでにありました。その中でメコンデルタでのサイゴン政府軍の作戦で、解放戦線容疑者が撃たれた。兵士の一人が銃剣で倒れている死体から肝臓を取り出して、生で食べてしまった様子の写真でした。そうゆう時代をへて日本の労働者は、世界で初めて大規模なベトナム反戦ストライキに決起したのだと思います。そうした中で世界中の民衆の良心と正義心を、揺さぶるほど深刻な影響力をベトナム戦争はもっていたのではないかと思います。これは、他の戦争に見られない、唯一ベトナム戦争についてのみ起きた国際現象だったと思います。写真集の中には、目をおおいたくなる様な場面が沢山のついでに。石川さんは、命をかけてフリーカメラマンとして、ベトナム戦争・内戦を撮り続けてきて「心で撮る」「命こそ宝」という言葉に、本当に共感致しました。私は終戦後に生まれましたが、私達の子供・孫に戦争の恐ろしさ無残さを伝え、この世から戦争をなくしていく使命があると思います。

しかし、民主党政権は、国際紛争の外交的・平和解決よりも、軍事力で恫喝・威圧する事によって均衡を保とうとする路線に転換しています。憲法九条「戦争の放棄・戦力及び交戦権の否認」を基に歴史の教訓に学び、自信を持って憲法九条の素晴らしさを多くの人に向かって話しかけて行きましょう。また、今回の講演については、もう少し多くの人、特に若い人達の参加が必要だったと思いました。